

わたしの狸小路（1）

～札幌狸小路商店街振興組合 菊池恒理 理事長

（株）キクヤ代表取締役社長

「商店街」が担うべきもの

いろいろなチャンネルでモノが流通することが当たり前の中で、単なるモノ売り集団としてだけでは商店街の魅力を維持していくことは難しい時代です。小売業だけではなく飲食業などのサービス業などの充実も商店街の特色を際立たせる可能性の一つです。また、商店街が最もオープンなコミュニティの核であることを生かし、主体的に安全・安心な地域を維持したり、伝統・文化を継承する役割を担っていかねばなりません。

「狸小路」の魅力とは

狸小路は札幌の中心にあって、まさに奥行きを付けている場所だと思います。札幌駅前地区の大型店のような縦への広がりはありませんが、水平方向への広がり、



菊池恒理 理事長

どこかに行くために歩く場所です。お気に入りの店に行く途中やその先で、また新しいお気に入りの店を見つけることができます。

これからの狸小路

狸小路は大規模な再開発の連発というようなエリアではなく、個性あふれる店舗が集積するようなエリアが似合っていると考えています。それは狸小路商店街に面している店舗ばかりではなく、ビルの2階や3階、そして南2条通や南3条通、狸小路に交わる丁目線を含めた「狸小路界隈」一体となったエリアに狸小路にしかない店、例えば製造小売の店やアーティスト・クリエイターの集う場所などが多く集まれば魅力も増していきます。ビルの空きスペースを活用して明治期の狸小路の代名詞「勸工場」の現代版のようなものなども一つの名物となるかもしれません。

また、創成川公園のオープンに続き市電のループ化も狸小路商店街にとっては素晴らしい出来事です。

2000年代

狸 小 路

2013年 (平成25)	2002年 (平成14)	1982年 (昭和57)	1973年 (昭和48)	1960年 (昭和35)	1958年 (昭和33)	1952年 (昭和27)	1949年 (昭和24)	1947年 (昭和22)	1936年 (昭和11)
1、7丁目が終日の歩行者専用となる。6丁目の道路バリアフリー工事が完成。	アーケード施設の大改修が行われる。	1、6丁目間に新アーケードとカラー舗装が完成。	狸小路100周年記念式典を行う。	2丁目アーケードが完成し、1、7丁目アーケード完成記念式典を行う。	3丁目が初のアーケードを建設。歳暮謝恩大売出しに1万円札のつかみどりが登場。	1丁目にエッフェル塔型の広告塔が建つ（表紙写真）。	戦中に姿を消した鈴蘭灯が1、8丁目に再建される。年末大売出しに100円札のつかみどりが登場。	札幌狸小路商店街商業協同組合を結成（1963（昭和38）年札幌狸小路商店街振興組合に改組）。	5丁目がネオン8基を設置。その後2、4丁目、6丁目にも設置。



▲新アーケードとカラー舗装が完成（昭和57年）



▶年末大売出し千円札のつかみどり（昭和50年）

より人にやさしい通りに



▲工事終了後の2丁目の様子



▲歩行者専用を示す看板

道路の勾配緩和や滑りにくい舗装材への変更、点字ブロックの敷設が行われました。また、歩行者の安全確保のため、終日で歩行者専用の道路となり、通行許可を得た荷捌車も商店街が定める「車両通行のルール」を順守して通行します。



◀ 4丁目の新旧アーケード（旧アーケード（写真上）は昭和52年のもの）